



日本古来の 琴演奏に興味津々

子どもたちに日本古来の音色に触れてもらおうと、山口市阿知須の阿知須小学校（西村淳校長、450人）で和楽器の体験授業があり、児童たちは琴の演奏を通して日本伝統の調べを楽しんだ。

ほとんどが琴の演奏で「わくらわくら」の演奏に挑む児童ら＝山口市阿知須

阿知須小児童が体験

は初体験で、親指に弦を弾くための爪と呼ばれる道具をはめ、「さくらさくら」の演奏に挑戦。最初は恐る恐る琴に触れていたものの、演奏を重ねるごとに、演奏を重ねるごとにきれいな音色が出せるようになり、さらに高度な曲にも挑んだ。

同市小郡で活動している「山口現代邦楽集団」の津田隆代表らが講師を務め、弾き方の

指導のほか、奈良時代に中国から伝わってきたという琴の歴史なども解説し、児童たちは邦楽に対する理解を深めた。

中村遙希さん(10)は「実際に弦に触れると想像よりもずっと硬かった。流れるように演奏することがとても難しかった」と話した。
(柴崎修太郎)